

課題名：森林環境教育への取り組み

- アンケートを通じた意向把握とその対応 -

所属・氏名：釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター 自然再生指導官 齋藤 克則

1 はじめに

「ふれあいセンター」は国有林をフィールドとした自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育などを支援する組織として2年目を迎えました。平成17年度に釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターが実施した森林環境教育の取り組みについて発表します。

2 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター活動区域

当センターは図-1で示すとおり北海道の東部に位置する、釧路根室森林計画区の根釧西部森林管理署管轄の国有林のうち釧路湿原上流域の国有林を主な活動区域としています。

水色で示した部分が釧路湿原でそれを取り囲むように緑色で示す活動区域の国有林があります。これをみると活動区域の国有林が釧路湿原の水源として重要な役割を持っていることが解ります。市町村でみると弟子屈町、標茶町、鶴居村、釧路町、厚岸町、釧路市のうち旧阿寒町の国有林です。



3 森林環境教育への取り組み

1) 平成17年度の主な取り組み

平成16年度は、PR不足などにより、ふれあいセンターの認識度がほとんど無く、これらを踏まえながら、平成17年度の主な取り組みとして 小中学校 校長会でPR、森林環境教育への要望を把握、森林環境教育の実施 の3点について進めました。

についてはふれあいセンターのPRとして昨年の5月に活動区域内の校長会で「森林環境教育ガイドブック」と「ポケットガイド」を配布しました。

また、その中でアンケートを実施し、現在、各学校で実施されている環境教育の内容や問題点を把握し、アンケートで出前教室を希望しているところには、センター職員が出向いて森林教室を実施しました。

配布したガイドブックはそれぞれ平成16年度末に作成した物で「釧路の森林」は活動区域内にあるパイロットフォレストを紹介しながら、これらの国有林の特色のあるフィールドを活用し森林の大切さと関心を高めてもらうための「指導者向け」のものです。



「森林は友達」は釧路地方で見られる樹木をイラストと解説で説明しながら森林とふれあうためのものでA6判で持ち歩きができ、「子供たち」用のものです。

なお、「森林は友達」はセンターの広報誌、新聞等で紹介され、希望する管内の小中学校に約3,000部配布しました。

また、この校長会で以下の内容についてアンケートをお願いしています。

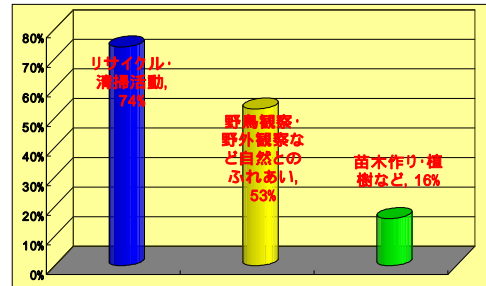
- ・学校で行っている環境教育は？
- ・環境教育を行うときの問題点は？
- ・ふれあいセンターが授業の中でお手伝いをするなら？
- ・ガイドブック、ふれあいセンターに対する意見、要望等です。

配布した99校中22校から回答があり、結果については次のとおりです。

2) 森林環境教育アンケート結果

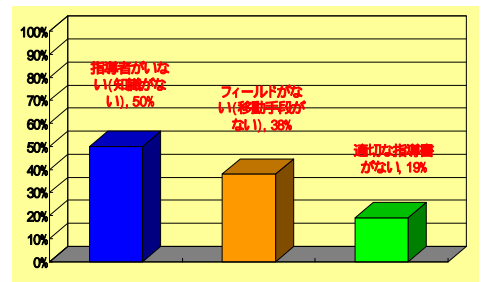
学校で行っている環境教育については表-1のとおりで、一番多かったのはリサイクル・清掃活動等74%、次に野鳥観察・野外観察などの自然とのふれあいが53%、苗木作り・植樹などは16%となっており、半数以上の学校で自然とのふれあい活動を実施しています。実施内容を工夫すればセンターとして協力出来る物があると考えられます。

表-1 学校で行っている環境教育は？



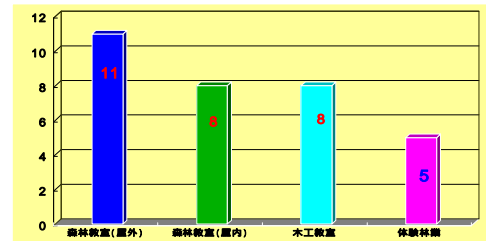
次に環境教育を行うときの問題点については表-2のとおりで、半数の学校で指導者がいない、4割近くがフィールドがないとなっており、指導者不足・活動場所の不足が大きな問題となっています。その他2割が適切な指導書がない、となっています。

表-2 環境教育を行うときの問題点は？



また、ふれあいセンターが授業の中でお手伝いをするならについては、表-3のとおりで森林教室が屋外11件・屋内8件、木工教室8件、体験林業5件となっています。

表-3 ふれあいセンターが授業の中でお手伝いをするなら？



今年度は、アンケート等でふれあいセンターに要請のあった森林教室および木工教室について実施しました。

3) 森林環境教育の実践

平成17年度に実施した森林環境教育の様子をいくつか紹介します。

釧路市立寿小学校

7月に1年生を対象に森林教室を実施しました。

写真-1は森林の大切さを勉強してもらう紙芝居の様相です。



写真-1 紙芝居

写真-2は校庭内での樹木観察の様子で、トドマツ、エゾマツの葉を触ってもらいその違いを実感するなど身近な植物に親しむ第一歩として指導しました。



写真-2 樹木観察

釧路町立知方学小学校 ちほまない

9月に全校生徒22名を1～4年生と5・6年生の低学年・高学年のグループに分け森林教室を実施しました。

低学年は紙芝居と樹木観察、高学年は地球温暖化と森林をテーマに実際に樹木の材積をはかり、炭素の固定量を調べるといった内容で実施しています。

写真-3は低学年での紙芝居の様子です。

写真-4、5は高学年での様子で、光合成について授業で習ったばかりで、植物が二酸化炭素を吸収して酸素を出すという仕組みについて勉強しており、地球温暖化のこととあわせて理解を深めてもらいました。



写真-3 低学年グループ紙芝居



写真-4 胸高直径の測定



写真-5 樹木のCO2吸収量について

釧路市ことばを育てる親の会

学校以外では釧路市内の耳の聞こえやししゃべるのが普通の子どもより若干遅い子ども達が通う3つの小学校の釧路市ことばを育てる親の会の「親子交流会」をふれあいセンターが協力して実施しました。

例年、野外でバーベキューを行っていましたが今年は標茶町国有林にある巨樹(写真-6)を見学したり、巨樹の前で紙芝居(写真-7)を楽しんでもらいました。その後、それぞれ記念にコースターを作ってもらいました。(写真-8)



写真-6 巨樹の見学



写真-7 巨樹のそばで紙芝居



写真-8 コースター作り

子供たちは、森林の中で虫を捕まえたり、鬼ごっこをしたりと普段訪れる機会のない森林で貴重な体験になったと思います。

釧路市立柏木小学校

釧路市立柏木小学校は森林環境教育の進め方で最初に先生に対する研修会を実施しました。
(写真 - 9、10)



写真 - 9 先生への研修会（屋内）



写真 - 11 樹木観察

写真 - 12 木工教室

後日、子供たちに対して森林教室（写真 - 11）と木工教室（写真 - 12）を実施しましたが、先生たちが事前に樹木のことや、森林の大切さ、また地球温暖化と森林との関係などについて知識を持ってもらおうと、子供たちへの事前学習や森林教室後のフォローをきちんと行うことが出来、学習効果を高めることができると思われました。



写真 - 10 先生への研修会（屋外）

4) 森林環境教育インフォメーション（写真 - 13、14）

平成17年度に実施した森林環境教育について一部紹介しましたが、今年度はこれまでに小学校で6カ所、その他で5カ所において出前森林教室を実施しました。

また、昨年7月からふれあいセンターで実施してきた森林環境教育について「森林環境教育インフォメーション」を毎月、発行し、活動区域内の教育委員会や小中学校に配布するとともにふれあいセンターのホームページでも情報の提供を行っています。

更に、このインフォメーションは支庁等の広報用ボックスを通じて新聞社等マスコミにも投げ込んでおり、先日はこのインフォメーションを見て地元の釧路新聞の記者が取材にくるなどセンターの活動を紹介するのに大きく役立っています。



写真 - 13 インフォメーション創刊号



写真 - 14 配布用アルバム

5) 平成18年度の対応

平成18年度は、これまで実施したことやアンケート結果に対応する形で以下のように森林環境教育を進めて行くつもりです。

アンケートで問題となっていた「指導者不足」に対しては今年度と同様に、ふれあいセンターとして各小中学校の要望を聞く中で出前の森林教室を積極的に実施していきます。

問題点の二点目のフィールドについては、活動区域内には高さ25mの森林を一望できる望楼(写真-15)があり、その下流域には別寒辺牛湿原(写真-16)があるカラマツの一大造林地であるパイロットフォレストがあります。

このパイロットフォレストを活用し、森林とのふれあいの場や体験林業の実施箇所として整備しながら広くPRをしていくつもりです。

また、現在ふれあいセンターで取り組んでいる雷別地区での自然再生事業にも学校単位で参加できるものを検討していくことも必要だと考えています。



写真 - 15

パイロットフォレスト内の望楼



写真 - 16

別寒辺牛湿原とパイロットフォレスト

3点目の適切な指導書がないについては、来年度の活動に向け、先生たちの声を聞く中、小学校の授業での「生活科」「理科」「総合学習」などと併せて活用できる森林環境ガイドブック(低学年用、高学年用)を作成し、今年度同様に校長会等でPRし、配布をしたいと考えています。

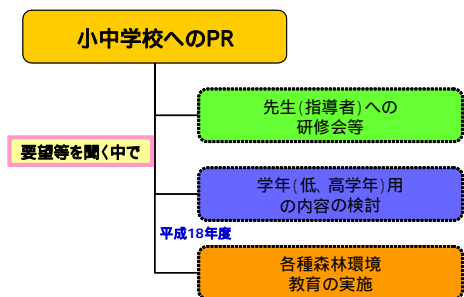
4 今後の森林環境教育の進め方

今後の森林環境教育の進め方として図-2に示すように今年度同様、管内の小中学校の校長会等に積極的にPRをしていきます。

その際、今年度、柏木小学校で実施したように、先生たちの研修会と生徒への森林教室をセットで考えてもらい、生徒たちにとって効果の高い森林環境教育が出来るようにしたいと思っています。

また、ガイドブックについてもより使いやすく、わかりやすい物になるように様々な意見を取り入れて改良をしていきたいと思っています。

図-2 今後の森林環境教育の進め方



5 これからの課題

最後にこれからの課題として、これらの森林環境教育については、ふれあいセンターだけでなく国有林全体として取り組む必要があると考えていますが、森林管理署においては担当者の不在や経験不足などから積極的に対応することが難しいのが現状だと思います。

今後、これらの活動を実施するにあたってのノウハウを蓄積し、森林教室を実施する側の「手引き書」をふれあいセンターとしてとりまとめたいと思っています。

